

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201015		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホーム うさぎ		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町896-2		
自己評価作成日	平成22年 9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-ijoho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年 10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の老人保健施設が隣接しているので、職員や看護師の応援がある。また福祉車両が充実して利用でき、全員が揃って外出が出来る。他の施設設備も利用できるので、多様な支援、援助が可能となっている。訪問看護の連携や協力医療機関である医師も電話で相談できる。また、往診に来て頂いたり、医療面でも安心して利用者様が生活でき、職員も安心して仕事出来る環境にあると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが自己の思いを声に出して自由に自己表現しており、管理者はじめ職員は利用者のそれらの思いを大切に受け止め、思いに沿った対応に努めている。地域のボランティアによるお茶会が月に1回開かれ、殆どの利用者と職員が参加している。たまたま調査訪問日にお茶会があり、利用者や職員と一緒に同席させていただいたが、先生のお手前のお稽古に集中しての約1時間の静寂な時の流れ、日常の生活の中に「潤い・ゆとり・ほど良い緊張」という意味からも貴重な取り組みと思われる。利用者への行き届いた対応や喚起等の配慮により不快な匂いもなく清潔な共有空間作りが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1、認知症になっても住み慣れた地域で安心・安全に暮らせる様に支援します、 2、地域の認知症の相談窓口になり地域に貢献するホーム作りを目指します。	地域の中で生活することを盛り込んだ事業所独自の理念を事務所・玄関・トイレなど目につき易い所に掲示し、職員会議・毎日の申し送り・気付きのあった場合等に理念を確認しながら実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによる「お茶会」を開催し指導して頂いたり、運営推進会議に地域の区長、民生委員、地域協力員等に参加していただきます。	運営推進会議参加者の区長、民生委員、地域協力員等を通じて地域住民との繋がりが出来、運動会に招待されたり、地域のボランティアによるお茶会が開催されている。管理者は認知症についてのパンフレットを作成して地域に配布したり、サポーター養成講座の案内をする等地域との関わりを積極的に作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の資料を配付して、理解をして頂いたり、サポーター養成講座のお知らせをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月、2回の運営推進会議を通じて利用者様の状況報告、行事報告、事故報告等の報告を行い、意見交換の場として、活発な意見を頂き、サービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、行政関係者、区長、民生委員、地域住民、利用者家族等が参加している。利用者の状況・行事・事故等の報告、参加者との意見交換を行っている。事故の原因究明をして欲しいとの意見があり、次回開催時に説明すると共に対応に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席をして頂いたり、他のホームの運営推進会議で交流しますが、後は電話で質問をしたりする位で日常的には交流がありません	市主催の定例会に出席したり、相談事を電話で聞いて行政機関との連携を摂っている。介護保険の更新手続き等にケアマネジャーが市を訪問した時に情報交換を行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、時間を決めた玄関の解錠を行う計画を立てておりますが、全面解錠に向け努力して行こうと思っております。	身体拘束をしないケアについては認識しているが、これまでに離苑した利用者がいたり、精神的に不安定な利用者等の事情で施錠する時間帯がある。	自由な暮らしの大切さを再度確認し、職員の見守りの方法を徹底する等の工夫で、全面解錠に向けて努力することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には、高齢者虐待に関する、新聞やニュースを回覧、掲示をしたりして、その都度、話題に取り上げ防止について話し合っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はありませんが、個々に介護福祉士等の勉強で学び、制度の必要性を把握しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時にはご家族等に十分な説明を行い理解して納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来訪の時にお話しを伺ったりして、その内容を職員で共有し、また運営推進会議などで発表しています。	意見箱を設置したり、家族等の来訪時に利用者の様子をお知らせしながら、家族等の気持ちを引き出すようにしている。ケアプラン作成の時や電話で家族等の要望等を聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で運営に係わる事を提案して、職員同士で話し合っている。	部署会議で職員の意見を聞いたり、個人的に直接要望等を話してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が目標を決め、やりがいを持って業務が遂行できる様に給与水準、労働時間、職場環境の整備に努め、職員個々の実績を把握し評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員個々の実際に行っているケアの力量を把握し、それに見合った、法人内の研修を開催したり、外での研修の情報を配付して機会を確保し個々のケアの向上を指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の定例会に参加をしたり、同系列の事業所の職員と相互訪問する機会を作り、お互いにサービスの向上に努める取り組みをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に必ず面接を行い、本人様に困りごと、要望、質問等を伺い、納得、安心を得る関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に必ず面接を行い、ご家族に困りごと、要望、質問等を伺い、納得、安心を得る関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前、最優先的する支援を見極め、他のサービスの導入も検討しそのことを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の能力に応じて、掃除、洗濯、ごみ捨て洗濯物たたみ等、一緒に行って、協力して暮らしている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で本人様の状態、様子等を報告、相談をしたりして、ご家族にも積極的に支援に参加して頂ける様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、これまで本人様が使用してきた家具、を持ってきて頂いたりご家族の写真を掲示して関係が途切れない様にしています。	家族が温泉、食事、自宅に連れて行きこれまでの馴染みの場所等の関係が途切れないようにしている。施設から入居した方が前の施設を訪ねて再会を喜び楽しいひと時を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握して利用者様同士がより良い関係が築ける様に係わり合いを支援し、利用者様が孤立しない様にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご家族様や本人様からn要求に対して可能な限り対応させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の意向や希望を尊重し、その方に合った支援をしています。	日常生活の中で見られる表情や言動等から一人ひとりの思いを把握するようにしてる。家族からこれまでの生活習慣等の情報を聞いて対応している。家族の希望により入居前の習慣のヨーグルトの飲用を続けている方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、ご本人様の生活歴や環境、病歴サービスにいたるまでの情報等を全職員の共通認識のもとで対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、個々に合った支援で画一的は支援にならない様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く暮らせる様に本人様、ご家族、関係者等と課題解決に向けケアのあり方を意見交換しアイデアを出し合って話し合って介護計画を作成しています。	ケアマネージャーが中心になって職員会議での検討や本人・家族等の要望を反映した介護計画を作成している。月に1回のモニタリングを基に状態等に変化が見られた時には随時の見直しと3ヶ月に1回の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別に日々の様子やケアの実施、気づきや特記事項など記録して職員間で共有し感じた事などを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に変化する個々のニーズに柔軟に対応できる様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は他の地域資源を活用してはいないが、情報を把握して、いつでも柔軟に活用できる体制を整えたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の意向を伺い、納得が得た医療機関を利用されている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、かかりつけ医が協力医の場合には月に1回の往診がある。従来のかかりつけ医を受診の場合は口頭で利用者の情報を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者は、日常に気付いた事や情報を週1回、訪問する看護師に報告したり、看護師に伝達された事を共有し、利用者様の受診に繋げる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、病院関係者と情報交換している。また、面会に行き、関係者に合い相談したりして、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議で終末期のあり方等を参加メンバーで話し合ったり、入居時には、終末期に係わる書類を説明し署名をしていただいている。しかし、グループホームでは限界がある旨も理解していただいています。	契約書に基本的な看取りの指針を明記しており、グループホームでは限界のあることを含めて入居時に家族等に説明している。状況の変化に応じて関係者が話し合い、可能な範囲での対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を講習したり、社内の勉強会に参加し緊急時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した、防災避難訓練を実施している。地域協力員を定めあり、防災訓練にも参加して頂いている。	災害時における地域協力員が約20人おり、年に2回開催の避難訓練(昼夜を想定)の時にも協力員の方が参加している。最近、ホーム独自での自主訓練を月に1回行うことを話し合い、すでに1回目を実施しており今後も継続する予定になっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は利用者様の人格を尊重し、個々のプライバシーを損ねない様な支援をしています。	個人の尊厳を重視した声かけや対応を心掛け、会議で話し合ったり、職員同士気付いた時にはお互いに注意しあって意識を高めるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の思いや希望を発言でき、自己決定出来る様に日頃からコミュニケーションを図り意志決定をしていただいています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムやペースを大切に、家事手伝い、レクリエーションのお誘いは決して無理強いせず、利用者様の意志決定を尊重しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のその日の好みで自由に選んで頂いております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の好みは大事にしています。食事の準備は職員が行っているが、下膳は自分でしている方もいます。また、行事の時のおやつ作りなどは利用者様に作って頂いています。	利用者の嗜好や希望を考慮しながらの食事を提供し、利用者と職員と一緒に食事を楽しんで、出来る方は下膳を行っている。利用者の体調や好みによっては代替品で対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は外部業者によるメニューにて栄養バランスを行っています。量や好みなどは、個々に合わせ対応しています。水分、食事摂取量は記録に残しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様自身で出来る方は、見守りを行い、出来ない方は自分で行って頂いた後に職員が口腔ケアの介助を行っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、個々の排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでの排泄を心掛けています。	チェック表により排泄パターンを把握し、利用者の表情やタイミングを見ながら、プライドを傷つけない声かけをしてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、水分、食事、運動、医療機関と連携しながら対応しています。排便の有無を記録として残し全職員が把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週2回(月、木)の入浴となっています。出来る限り利用者様の要望に沿った入浴を行いたいと思っています。	利用者の要望に沿った入浴が出来ればと考えてはいるが、現在は週に2回(月・木)の入浴支援を行っている。状況によってはシャワー浴や清拭等に対応することもある。	職員の都合で曜日を決めるのではなく、利用者一人ひとりの生活習慣やその時々の希望を考えながら、個々に沿った入浴支援について話し合っ欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人一人に合った自分のリズムで生活して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に使用している薬の名前、効用、リスクが一覧表になっていて、職員は毎回確認を行い、利用者様に服用して頂く。また自分のサインを記録に残す事で責任感を持つようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、好みの物、習い事、などを把握して能力に応じ出来る事などを提供して本人の楽しみになる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に散歩に出かけたい方や外気浴をしたい方の希望を出来る限り取り入れ職員と一緒に戸外に行っています。また月に1度は、お出掛けし、外食を楽しんでいます。	日常的に散歩に出かけたり、屋外での外気浴をする等出来るだけ戸外に出る機会を作っている。毎月1度はお出かけの日を設け外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で利用者様の現金は管理、または所持できない事になっていますが。一緒に買い物に出掛け、立て替える事は可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があれば、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植えたり、ホールには、皆で作った季節ごとの作品を展示、また楽しかったイベントの写真を掲示したりして常に利用者様が快適に生活できる様に明るい環境作りを心掛けています。	ホールは天井が高くて明るく、季節毎の飾り物、行事の写真、利用者の作品を展示したり、畳のコーナーを用意する等利用者が居心地良く生活出来る環境作りの配慮が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室で過ごされたり、ホールにはソファがあり、気の合った利用者様同士が自由に会話したり、テレビをご覧のなったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を出来る限り持ってきて頂いたり、テレビ、冷蔵庫、ラジオを個々に設置して、居室での一人の時間も心地よいものにして頂くようにしています。	利用者は馴染みの衣装ケース・時計・テレビ・ラジオ・冷蔵庫等を持ち込んだり、家族の写真や自己の作品を飾ってそれぞれ個性のある居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで手すりが設置、トイレは広く車椅子の方でも使用でき、安全で、かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫してあります。		